

モジュール型中級後期教科書の学生による評価

宮内 俊慈

要旨

関西外国語大学留学生別科の中級後期のクラスにおいては、2008 年度より本校教員の高屋敷(2012)により開発されたモジュール型教科書が使われてきた。当教科書は、ドラマを対象としたユニット7を除き全6ユニットから成り立っているが、2014年の夏にユニット1の改訂が行われ、秋学期からその試用が始まった。本稿は、変更されたユニット1を含め、この中級後期の教科書が学生間でどの程度受け入れられており、どのような問題点があるのかを確かめるべく学生にアンケートを実施したので、その結果を報告するものである。

【キーワード】 モジュール型教材、接触場面、ディスカッション

1. はじめに

関西外国語大学留学生別科においては、2008 年秋学期(9月~12月)より中級後期の会話クラス(日本語会話5: Spoken Japanese 5、以下、SPJ5)のメインテキストを独自に開発し使用してきた。開発は、本校教員の高屋敷(2012)が行い、モジュール型教材が採用された。モジュールというのは、岡崎(1989)によれば、「教科書のように特定の順序に沿って一つ一つの課を学習するタイプの教材とは違い、学習者が既に学習し終わっている項目から一定程度独立して使えるようにした教材」である。高屋敷(2012)はこのモジュール型教材を採用した理由として、中上級レベルでは学習項目の提出順序を積み上げ方式で行っていく必要性が低いことと常に変化する学習者のニーズに柔軟に対応できることの二つを挙げている。

こうして開発された SPJ5 の教科書であったが、社会情勢の変化と共に実際と合わない状況が出現し、途中で内容が変更されたものがあり、筆者が担当した 2012

年の秋学期の時点での各ユニットのタイトルは、下記のものであった。

Unit 1 「Mixi、やってる？」

Unit 2 「交通機関のマナー」

Unit 3 「夫？主人？」

Unit 4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか？」

Unit 5 「インターネットは人類を幸せにしたか？」

Unit 6 「外国人労働者、受け入れますか？」

各ユニットで取り上げられたトピックのそれぞれの事情は、高屋敷（2012）によれば以下の通りである。

『ユニット 1 は、当時大流行し始めていた SNS 「ミクシィ」について取り上げた。本学の 70～80% を占める米国からの留学生はほとんど Facebook に加入しており、それとの比較でディスカッションも盛り上がったという経緯があった。ユニット 2 は、日本の電車やバス内でのマナーについて、例えば、携帯電話での会話を慎むことなど、日本独自のマナーであり議論の的になった。ユニット 3 は、ジェンダーや性差別の問題について、「夫に仕えているわけではないのに何故いまだに主人／ご主人というような呼称の使用が許されているか」などがいいディスカッション・ポイントになった。ユニット 4 では、国際ビジネスなどを専攻している学生にも考慮し、世界的成功を収めた自動車や電子機器以外の日本企業、例えば、衣料品のユニクロなどの企業が海外で成功できるかどうかについて議論できるようにした。ユニット 5 は、インターネットに潜む危険性、例えば、情報管理、ネット中毒、SNS 疲れの問題などについて取り上げた。インターネット関連のトピックは、毎回ディスカッションが非常に盛り上がり、学生の関心が高かった。ユニット 6 は、日本の少子化問題、それに伴う若い労働力の不足を補うための「外国人労働者の移入問題」について取り上げてみた。』

しかし、ユニット 1 のトピックとなっていた Mixi は、その後、人気凋落し近年はスマートフォンの普及に合わせ多くの日本人の若者が LINE を使うようになってきた。そのため、ユニット 1 の内容も時代遅れのものとなり改訂が必要となってきた。そこで、トピックを LINE にすることにしてユニット 1 の改訂作業にとりかかった。本文ダイアログの作成、単語リストの作成は高屋敷が担当し、そ

れ以降のテキストとしての編集作業は筆者が担当した。改訂作業と言っても、文型の学習項目を変更する必要はないので、今回の改訂においては元のユニット 1 で取り上げた文型はそのままにし、既存の単語リストもできる限り変更を加えずに行われた。そのため、文型の説明パートや文型練習のパートは大幅な変更をすることなく改訂することができた。

2. 改訂内容

今回改訂された主なものは、ユニット 1 のメインダイアログなので、その改訂前のもの（図 1）と改定後のもの（図 2）をここに転載する。

2.1 改訂前のダイアログ

改訂前に扱われていたトピックは、Mixi である。Mixi とは、株式会社ミクシィが運営する Facebook と同じようなソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）であり、2004 年にサービスが開始された。ミクシィ社の 2011 年 9 月時点のデータによれば、登録ユーザー数が 2,535 万人、うち 1 か月に 1 回以上ログインをする利用者（アクティブユーザー）数は 1,516 万人となっている。従って、SPJ5 の新テキストが開発された当初は、日本人大学生のユーザーもかなりの数があり、このダイアログも時代に則したものであった。

図 1 改定前のダイアログ

Unit 1 ミクシィ (Mixi)、やってる？

会話 1 【大学のコンピュータールームで】

まり : ジョン、何してるの？ メール？

ジョン : あ、まりちゃん。うん。ほら、これ、フェイスブック。

まり : あ、フェイスブック？ フェイスブックといえば、ジョンは、ミクシィ、やってる？

ジョン : ミクシィ？ ああ、日本の SNS のこと？

まり : うん、そう。フェイスブックやマイスペースと同じ SNS の一種で、日本国内最大のサービスなんだよ。

ジョン : へえ、じゃあ、僕もミクシィに入ったほうがいいかな？

まり : うん、参加者がお互いのマイミクと友達になったりできるから、ジョンも、もっと友人関係を広げられるんじゃない？ 私の友達も、みんな、やってるよ。ジョンもミクシィに入らないと、仲間はずれになりかねないよ。

ジョン : え、ほんと？ すぐ登録できる？

まり : うん、もちろん。じゃあ、私が、まずジョンのマイミクになってあげる。はい、今、私の携帯サイトからジョンのメールアドレスに招待メールを送ったから、見てみて？ 届いている？

ジョン : どれどれ、あ、うん、届いてるよ。じゃあ、早速、登録してみようかな…。

まり : うん、手伝ってあげるよ。私が教えたとおり、やってみて。

ジョン : うん、ありがとう！

会話2 【ミクシィの登録画面を見ている二人】

- ジョン： ミクシィは、会員になっている人から招待されないと、入れないの？
- まり： うん、誰でもすぐ登録できるよ。でも、マイミクが一人もいないと30日で自動的に退会になっちゃうよ。それから、入会は、15歳以上の人に限られているよ。
- ジョン： そうなんだ。あ、これがプロフィール登録用の画面だね。
- まり： うん、そう。そこに名前や性別、住所、誕生日、趣味なんかを書き込めばいいのよ。
- ジョン： よし、始めは名前だね。名前は、本名じゃないと駄目？
- まり： そんなことないよ。本当の名前じゃなくても、大丈夫。
ミクシィでは、本名を公開している人は少ないかも…。みんな、たいてい自分が誰かわからないように、匿名の名前で登録してる人が多いよ。私のニックネームは、「マリン」だよ。
- ジョン： そっか。じゃあ、僕もやってみる。
- まり： うん。あ、それから、このジョンのプロフィールの情報を制限することもできるよ。
- ジョン： ほんと？ どうすればいい？
- まり： 見て。ここに公開先って、書いてあるでしょう。
ジョンのプロフィールや日記を誰にまで公開するか選べるのよ。ここに「友人」「友人の友人」「全体」とあるでしょう？
- ジョン： うん。なるほど。この中から選ばればいいんだね？



会話3 【ミクシィの画面を見ている二人】

- ジョン： ここに「マイミクシィ一覧」って、あるけど…？
- まり： うん、今は、ジョンのマイミクは私一人だけよ。
- ジョン： わかった。あ、すごい！ まりは、マイミクが150人もいるんだね？
どうやってマイミクを増やせばいい？
- まり： そうねえ…。まず自分の友達を招待したらどう？ それから、色々な人のページの日記を読んで、同じ趣味の人を見つけたり、気が合いそうな人にメッセージを送ったりするの。
そして、仲良くなった人をマイミクシィとして招待すればいいんだよ。
- ジョン： へえー。おもしろそう。つまりブログみたいに手軽に日記が書けるっていうわけだね。
それで、同じ趣味の人は、どうやって、見つけるの？
- まり： ここに「コミュニティ」っていうのがあるでしょ。ここでジョンが関心を持っていることを検索すればいいの。
- ジョン： わかった。僕、剣道をやっているから、あとで剣道のコミュニティを検索してみるよ。
ええと、この人の形のマークは何？
- まり： あ、そのマークをクリックすると、先週ジョンのページを読んだ人を自動的に記録して、表示してくれるんだよ。逆に、ジョンが誰かのページを読んだ時も、「先週の訪問者」として、その人のページに残るのよ。先週、「〇〇さんは読んでくれた。」「××さんは読んでいない。」といったこともひと目でわかるのよ。
- ジョン： へえ、そうなんだ。そんな機能はフェイスブックにはないなあ…。

会話4 【数日後キャンパスで】

- まり： あ、ジョン！ どう？ あれから、マイミクは増えた？
- ジョン： うん、おかげで楽しんでるよ。剣道のコミュニティに入ったから、マイミクも増えて、新しい友達もできたよ。公開先を「友人の友人」に限定しているおかげで、ミクシィに個人的な日記や写真をアップしても、インターネットの不特定多数の人に見られることがないからね。
- まり： そう。でも、問題点がないわけじゃないから、気をつけてね。
- ジョン： へえ、どんな問題？

まり： うん、例えば、うちのお姉ちゃん、あるアイドルの「追っかけ」なの。それで、会社の同僚にそういう個人的な趣味が筒抜けになって、あとで恥しかったんだって。
それから、同じ人が別のメールアドレスで会員登録をして、別人になりすまして、知人の日記をこっそり読んでいたりすることもあるんだって…。

ジョン： へえ。

まり： それに、この間、健が言ってただけけど、健君、ミクシイ中毒になっちゃったんだって。
ジョン： ミクシイ中毒？

まり： そう。つぶやいたり、日記を書いたりするたびに、誰が自分のつぶやきや日記にコメントをつけているかと気になって、一日に何十回もログインしちゃうんだって…。それで、睡眠障害になっちゃったんだって。

ジョン： そっか…。僕らも気をつけなくちゃね。

2.2 改訂後のダイアログ

その後、日本では Mixi の人気は凋落し、それに代わって LINE が若者の間で使われるようになってきた。元々、外国人留学生にとっては日本で最大とは言え SNS と言え、Facebook であり、留学生間における Mixi の認知度は低く、日本人との会話においても Mixi が話題になることはあまり見られないような状況になってきた。そこで、2014 年の秋学期からユニット 1 のトピックを Mixi から LINE に変更することになった。しかし、トピックを変える必要はあっても学習する表現を変える必要はないので、ダイアログの中で同一の表現を取り入れることで作業が進められた。

図 2 改定後のダイアログ

Unit 1 LINE、やってる？

会話1 【大学のラウンジで】

まり： ジョン、何してるの？ 携帯？

ジョン： あ、まりちゃん。ううん、ほら、これ、スマートフォン！

まり： わあ、ジョンもスマホに替えたの？

ジョン： うん、昨日買って来たんだ。今、どんなアプリをインストールすればいいかなと思って…。

まり： そっか…。アプリといえば、ジョンは、LINE、やってる？

ジョン： LINE？ ああ、みんなやってるよね。僕もやったほうがいいと思う？

まり： うん、そうしなよ。世界で利用者数が5億人を超えたって、ニュースで聞いたよ。日本でも5千万人以上が利用してるんだって。それに、LINE で普通の電話や携帯にも安く電話ができるようになったんだよ。

ジョン： へえ、じゃあ、僕もインストールしてみようかな？

まり： うん、ただでインストールできるし、メッセージも通話も無料でできるし、グループチャットもできるしね。

ジョン： グループチャット？

まり： うん、一度にたくさんの方々にメッセージが送れるから、飲み会やサークルの連絡をする時にすごく便利なの。私の友達も、みんな、やってるよ。ジョンも LINE やらないと、仲間はずれになりかねないよ。

ジョン： え、まじで？ すぐインストールできる？

まり： うん、もちろん。早くアプリの購入サイトに行って、LINE って検索してみて？ あった？

ジョン： どれどれ、あ、うん、あったよ。じゃあ、早速、インストールして登録してみようかな…。
まり： うん、手伝ってあげるよ。私が教えたとおり、やってみて。
ジョン： うん、ありがとう！

会話2 【LINEの登録画面を見ている二人】

ジョン： LINEの友達は、どうやって登録するの？
まり： あ、スマホの電話帳に載ってる友達でLINEをやっている子なら自動的にLINEの友だちリストに入って来るよ。
ジョン： え？ まじで？ あんまり仲がよくないやつとかあまり知らない人とか親戚とかも全員？
まり： うん、そう。
ジョン： それは、ちょっと嫌だな…。
まり： じゃあ、今、「アドレス帳を送信しない」を選択して、設定の「友だち自動追加」もオフにしておいたほうがいいよ。
ジョン： そっか、じゃあ、そうしておくね。でも、これから友達を追加したい時はどうすればいいの？
まり： ジョンが友達になりたい人だけ招待すればいいんじゃない？ それにIDを設定してそのIDを友達に教えてもいいのよ。「その他」の「プロフィール」を見てみて？ IDがまだ未設定になってるでしょ？
ジョン： あ、ほんとだ。IDは何でもいいの？
まり： うん。でも、一度設定したら変更できないから、気をつけてね。
ジョン： うん。あ、できたできた。この「QRコード」とか「ふるふる」って何？
まり： QRコードは、QRコードリーダーで相手のコードを読み取ることで友達になれるのよ。「ふるふる」は友だちになりたい人のスマホと自分のを近づけて、振ればいいの。私と「ふるふる」、やってみる？ じゃあ、振って振って。
ジョン： うん。わ、出て来た！ これがまりの名前かな？
まり： うん、そう。ね、簡単でしょ？

会話3 【LINEの画面を見ている二人】

まり： 今、ジョンにメッセージ、送ったよ。届いた？
ジョン： うん、届いたよ。わ、これ、何？ かわいいね。
まり： あ、それ、スタンプだよ。
ジョン： これもただ？
まり： ただのものあるけど、有料スタンプなら、色々なアニメとかキャラクターのスタンプがたくさんあるよ。ジョンはiPhone？
ジョン： うん、そうだよ。
まり： じゃあ、iTunes Storeで買えるよ。
ジョン： オッケー。あれ、僕が送ったメッセージの横に何か小さく書いてある…。
これ、何て書いてあるの？
まり： あ、それ？ 「きどく（既読）」って書いてあるんだよ。相手が自分のメッセージを読んだら、つくのよ。だから、相手が自分のメッセージを読んだかどうかひと目でわかるの。
ジョン： へえ、そうなんだ。便利だね。
まり： でしょ？ でも、デメリットもあるの。
ジョン： デメリット？
まり： うん。「既読」の機能はすごく便利なんだけど、「既読」って表示されているのに、メッセージの返信がすぐに来ないとイライラしてしまうことがあるのよ。
ジョン： え？ そうなんだ。僕はそんなに気にしないけどなあ。
まり： うへん、みんなジョンみたいにのんびりしてればいいんだけどね…。イライラするだけじゃなくて、「既読って出てるのにどうして返事くれないの？」、「無視？」「私、悪いこと言ったかな？」といったことを心配しすぎて、「LINE疲れ」になっちゃう人も多みたい…。
ジョン： へえー。そうか。つまりLINEは、長所もたくさんあるけど、逆に欠点も多いっていうわけだね。

会話4 【数日後キャンパスで】

まり： あ、ジョン！ どう？ あれから、LINE、使ってる？
ジョン： うん、おかげで楽しんでるよ。まりちゃん達のグループチャットにも参加できたから、新しい友達もできたり、色んな飲み会やイベントにも誘ってもらえるしね。通話もただでできるし、ビデオ通話もできるからSkypeに接続しなくてもいいし…！
まり： そう。でも、問題点がないわけじゃないから、気をつけてね。

ジョン： へえ、どんな問題？
 まり： うん、例えば、うちのお姉ちゃん、友達を限定(ひんてい)しないで、スマホの電話帳から LINE をインストールしているユーザーを自動的に友だちにする設定にしちゃったの。そうしたら、お姉ちゃんの携帯電話番号を前に使っていたユーザーの友達まで友だちリストに入っちゃったんだって。それから、知らない人から個人的なメッセージが来て、困っているみたい…。
 ジョン： へえ。
 まり： それに、LINE の ID を不特定多数(ふていどすう)の人が見るブログの掲示板(ひょうじばん)や twitter に書き込むと、友人になりすましてメッセージが送られてきたりすることもあるんだって…。
 ジョン： そっか、こわいね。じゃあ、ID は気軽に人に教えないほうがいいなあ。
 まり： うん。それに、真希ちゃんの妹、今、高校 2 年生なんだけど、グループチャットで仲間はずれにされて、いじめのターゲット(たーげっと)にされちゃったそうよ。あ、それから、この間、健が言ってたんだけど、健君は LINE のゲーム中毒(ちゆうどく)になっちゃったんだって。
 ジョン： ゲーム中毒？
 まり： そう。ゲームのレベルが上がるたびに、必要な武器(ぶき)やコインを買うために課金するシステム(けいん)になっていて、沢山お金を払っちゃったんだって…。それに、ゲームがやめられなくて、睡眠障害(すいみんしょうがい)になっちゃったんだって。
 ジョン： そっか…。僕らも気をつけなくちゃね。

すでに述べたように、トピックは Mixi から LINE に変わったが、その中で扱う表現を変更しない方針で改訂が行われた。その両ダイアログで扱われている表現は以下の 6 つである（ダイアログ中の下線部参照）。

～たとえば

～かねない

～通り（に）

～といった

～というわけだ

～たびに

さらに、使用する単語もできる限り変更がないようにしたため、テキストの変更を最小限で抑えることができた。

3. アンケート調査

3.1 調査対象

今回の改訂に伴いアンケートを実施し、学生の反応を確かめることにした。対象の学生は 2014 年秋学期（9 月～12 月）の SPJ5 の全学生である。アンケートは Blackboard Learn（Blackboard Inc.）という本校で使用されている学習支援システムを活用しオンラインで実施した。秋学期の SPJ5 の学生は 35 名（男：13 名、女：22 名）おり、そ

の内 20 名（男：6 名、女：14 名）が参加した。参加した学生の出身国の内訳は、アメリカ 10 名、香港 2 名、トルコ、エストニア、タイ、ノルウェー、韓国、ラトビア、ポーランド、イギリス、各 1 名であった。

3.2 調査内容

調査は、教科書全体に対する質問（3 問）と各ユニットに対する評価（15 問 x 4 ユニット = 60 問）があり、全 63 問であった。質問の内容は、以下の通りである。

図 3 実施したアンケート

<u>SPJ5 教科書アンケート</u>					
(1) 教科書は全体的にいいと思う					
(The packets of SPJ5 are good as a whole.)					
Strongly Agree	Somewhat Agree	Neither Agree nor Disagree	Somewhat Disagree	Strongly Disagree	
(2) Unit 1 「LINE、やってる？」について					
(2)-1. トピックは面白いと思う					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The topic is interesting.)					
Strongly Agree	Agree	Neither Agree nor Disagree	Disagree	Strongly Disagree	
(2)-2. ダイアログの内容はいいと思う。					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The content of the dialogue is interesting.)					
Strongly Agree	Agree	Neither Agree nor Disagree	Disagree	Strongly Disagree	
(2)-3. ダイアログの長さは、					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The length of the dialogue is :)					
Too long	somewhat long	adequate	somewhat short	too short	
(2)-4. ダイアログの難しさは、					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The difficulty of the dialogue is :)					
Too difficult	somewhat difficult	adequate	somewhat easy	too easy	
(2)-5. 単語の数は、					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The number of the vocabulary words is :)					
Too many	somewhat too many	adequate	somewhat too few	too few	
(2)-6. 単語の難しさは、					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」:The difficulty of the vocabulary is :)					
Too difficult	somewhat difficult	adequate	somewhat easy	too easy	
(2)-7. 単語練習の量は、					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The amount of the “vocabulary practice” is :)					
Too much	somewhat too much	adequate	somewhat too little	too little	
(2)-8. 単語練習の内容はいいと思う					
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The content of the “vocabulary practice” is sufficient.)					
Strongly Agree	Agree	Neither Agree nor Disagree	Disagree	Strongly Disagree	

- (2)-9. 表現の説明は、満足できる。
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The explanation of expressions is satisfactory.)
Strongly Agree Agree Neither Agree nor Disagree Disagree Strongly Disagree
- (2)-10. 表現説明の例文の量は、
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The amount of example sentences in the explanation is :)
Too much somewhat too much adequate somewhat too little too little
- (2)-11. 表現練習の量は、
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The amount of the “expression practice” is :)
Too much somewhat too much adequate somewhat too little too little
- (2)-12. 表現練習の内容はいいと思う。
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The content of the “expression practice” is appropriate.)
Strongly Agree Agree Neither Agree nor Disagree Disagree Strongly Disagree
- (2)-13. 聞き取り練習は効果があると思う。
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The listening practice is effective.)
Strongly Agree Agree Neither Agree nor Disagree Disagree Strongly Disagree
- (2)-14. 聞き取り練習の音質はいいと思う。
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The sound quality of the listening practice is sufficient.)
Strongly Agree Agree Neither Agree nor Disagree Disagree Strongly Disagree
- (2)-15. 聞き取り練習の会話の速さは、
(About Unit 1 「LINE、やってる？」: The recording speed of the listening practice is:)
Too fast somewhat fast adequate somewhat slow too slow
- (3) Unit2 「交通機関のマナー」について**
(2) と同様の質問
- (4) Unit3 「夫?、主人?」について**
(2) と同様の質問
- (5) Unit4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか」について**
(2) と同様の質問
- (6) 今後取り上げて欲しいトピックがあれば、教えてください。**
(Tell us what kind of topics we should include in the SPJ5 packets in the future.)
- (7) フリーコメント (SPJ5 の Packet について、どんな意見でもあれば教えてください)**
(Do you have any other comments regarding the SPJ5 packets?)

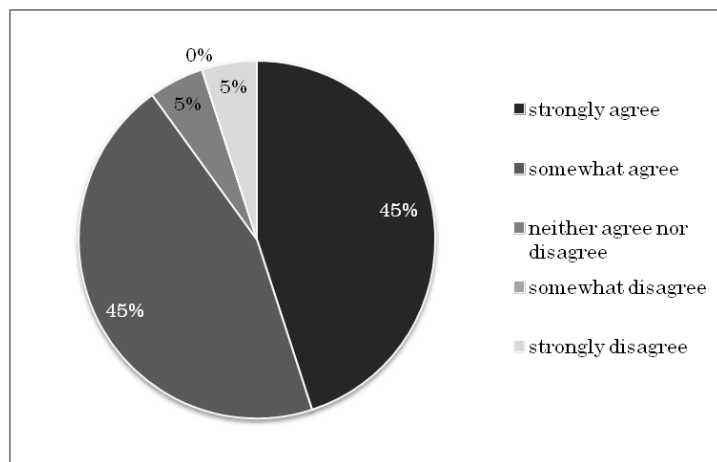
3.3 調査結果

3.3.1 教科書全体に対する質問

まず、教科書全体に対する感想（質問(1)）を求めたが、その結果が図4である。全体と言ってもユニット4までが対象になっているわけであるが、“strongly agree”と“somewhat agree”を合わせて90%の学生が「いいと思う」に賛同した。逆に、“disagree”は5%のみであった。教科書の全体的な方向性としては、多くの学生に受け入れられ

ていると言えるだろう。

図4 「教科書は全体的にいいと思う」に対する賛否



3.3.2 ユニット毎の質問

トピックについて

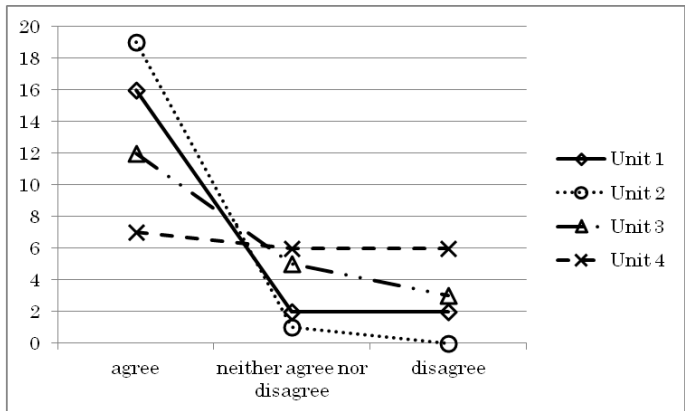
ユニット毎にトピックが違うので、それぞれのトピックのついて「面白いと思う」かどうかを聞いた（質問(2)-1）。ユニット毎の比較を表すグラフが図5である。4ユニット全てにおいて、“agree”が“neither agree nor disagree”と“disagree”を上回っているが、ユニット4では、その差がほとんどなく、学生のトピックに対する関心が低いと言える。ユニット4のトピックは、「ユニクロ、MUJIは海外で成功するか？」で日本のビジネスに関する話題であったが、ビジネスにあまり関心のない学生が多かったのだと思われる。この傾向は、その学期の学生によって大きく結果が異なってくると考えられるので継続的な調査でデータを蓄積する必要がある。ユニット1とユニット2の人気は高いと言えよう。ユニット1は、今回改訂の対象となったLINEについてのトピックであり、ユニット2は、日本のマナーについてである。LINEは、日本人学生のほとんどが使っていることを考えれば、留学生にとっても身近なトピックになるし、日本で生活を始めた留学生にとっては、交通機関におけるマナーの違いはすぐにでも気がつくことであろう。関心が高いのも容易に頷ける。

ダイアログの内容について

次に、実際の教科書のダイアログの内容そのものに対する評価を尋ねた（質問(2)-2, (3)-2, (4)-2, (5)-2）。ユニット毎の比較を表すグラフが図6である。ここでも、4ユニッ

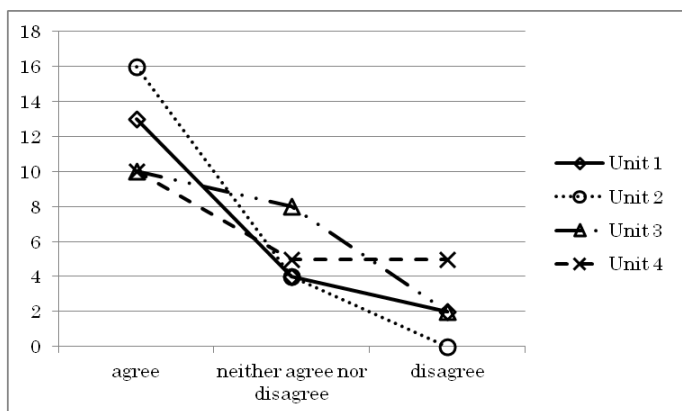
ト全てにおいて、“agree”が“neither agree nor disagree”と“disagree”を上回っており、同じくユニット1とユニット2の評価が高かった。

図5 「トピックは面白いと思う」に対する賛否の比較



しかし、ユニット4に関しては、「ダイアログの内容がいい」に同意する人数が「トピックが面白いと思う」についてより多くなった。トピックに関心がないからと言って、必ずしもダイアログの内容そのものに対する評価が低くなる訳ではないようである。このことから、ダイアログの内容に関しては、どのユニットも質が高いということが言えるだろう。

図6 「ダイアログの内容はいいと思う」に対する賛否の比較

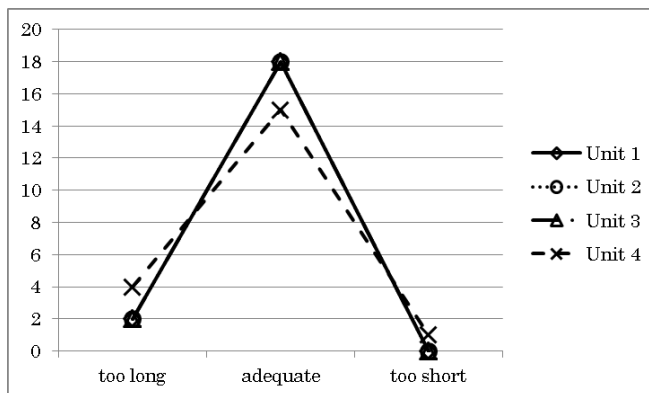


ダイアログの長さについて

次に、同じくダイアログについて、その長さについて尋ねた（質問(2)-3, (3)-3, (4)-3,

(5)-3)。ユニット毎の比較を表すグラフが図 7 である。長さに関しても、トピックに対する関心の高さの影響をあまり受けずに学生が「適切」と判断しているようである。

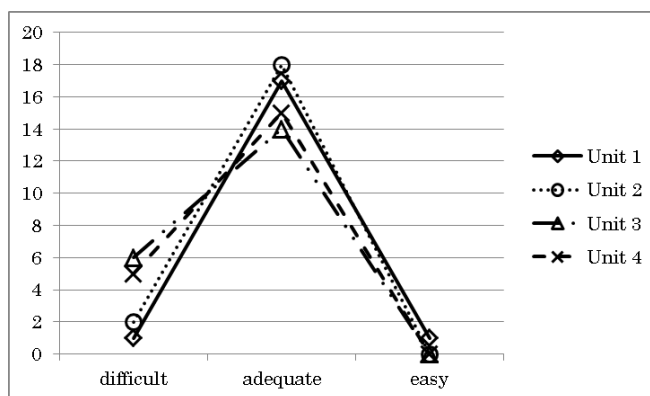
図 7 「ダイアログの長さ」に対する評価の比較



ダイアログの難しさについて

次に、同じくダイアログについて、その難しさについて尋ねた(質問(2)-4, (3)-4, (4)-4, (5)-4)。ユニット毎の比較を表すグラフが図 8 である。

図 8 「ダイアログの難しさ」に対する評価の比較



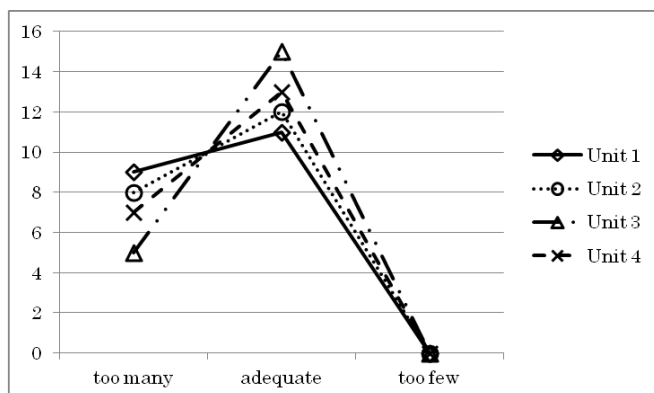
難しさに関しては、ユニット 1、2 とユニット 3、4 で評価が分かれた。ユニット 1、2 は、「適切」とする回答が圧倒的に多かったが、ユニット 3、4 については、「適切」が減り、「難しい」とする回答が増えた。ここでは、トピックに対する関心の高さの影響があり、トピックが面白いと感じるのと難しいと感じるのは反比例しているように思える。

単語の数について

次に、単語の数について、その多さについて尋ねた（質問(2)-5, (3)-5, (4)-5, (5)-5）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 9 である。単語リスト上の実数は、それぞれ、Unit 1 と Unit 2 が 77、Unit 3 が 51、Unit 4 が 65 である。実数が増えるに従って“too many”と回答する数が増え、“adequate”とする回答が減っていることが分かる。“too few”と回答する学生はどのユニットでも一人もいなかった。

SPJ5 では、各ユニットをほぼ 6 回（50 分 x 6 コマ）でこなしていくスケジュールが組まれている。そのスケジュールで 1 ユニットの 70 を超す単語を覚えていかなくてはいけないのは、中級後期とは言え多すぎるのかもしれない。覚えるべき単語の数を 50 程度に絞り込んでいった方がいいと思われる。

図 9 「単語の数」に対する評価の比較

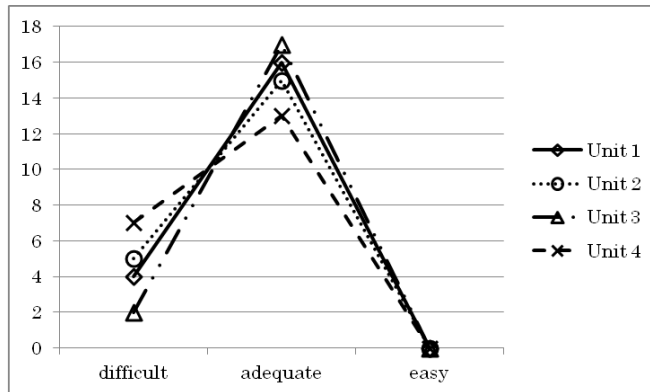


単語の難しさについて

次は、同じく単語について、その難しさに対する評価を聞いた（質問(2)-6, (3)-6, (4)-6, (5)-6）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 10 である。

ここでも、どのユニットも“adequate”の回答が一番多かったが、ユニット 1 に関しては、単語は多く感じているものの難しさはそれほど感じていないようである。一方、ユニット 4 は単語の数はそれほど多く思わないにもかかわらず、難易度は高いと感じているようだ。ユニット 4 はトピックがビジネス関連ということもあり、学生たちに馴染みのない単語がどうしても多くなり、難しく感じてしまうということが背景にあると思われる。

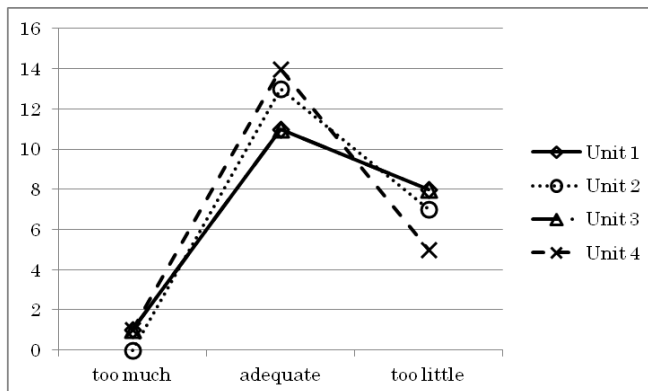
図 10 「単語の難しさ」に対する評価の比較



単語の練習の量について

各ユニットでは、表現練習だけではなく、単語練習の時間も取り入れている。その練習量について聞いた（質問(2)-7, (3)-7, (4)-7, (5)-7）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 11 である。どのユニットにおいても“adequate”が一番多かったが、今度は実際の単語の数とは逆に数が多いユニットほど練習量が少ないという意見が多い結果となった。特に、ユニット 1 は、他のユニットに比べて“adequate”が少なく、“too little”が多い結果となった。

図 11 「単語練習の量」に対する評価の比較

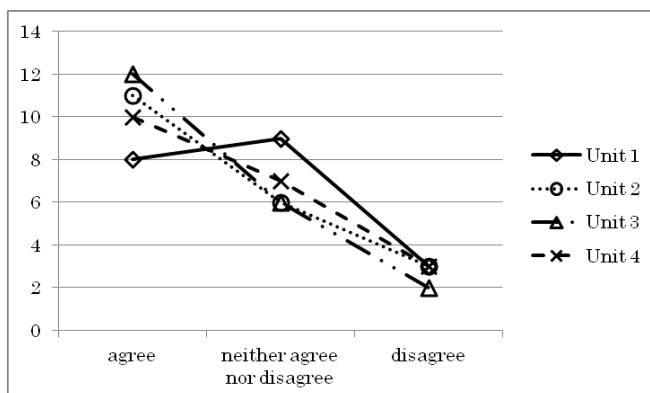


単語の練習の内容について

その単語練習の内容について聞いたのが次の質問である（質問(2)-8, (3)-8, (4)-8, (5)-8）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 12 である。ユニット 2、3、4 については

いずれも、“agree”が“neither agree nor disagree”および“disagree”を上回っているが、ユニット1では、“agree”が“disagree”を上回ってはいないものの“neither agree nor disagree”を下回っている。実際の単語の数で言えば、ユニット1とユニット2は同数であるが、ユニット2の評価の方がユニット1の評価を上回っている。前項のユニット1の練習量の不十分さが内容の評価に影響したようである。

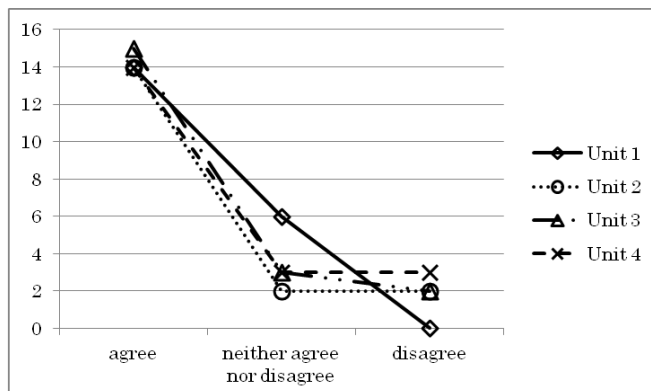
図12 「単語練習の内容」に対する賛否の比較



表現の説明について

表現説明の良し悪しに関する評価を聞いたのが次の質問である（質問(2)-9, (3)-9, (4)-9, (5)-9）。ユニット毎の比較を表すグラフが図13である。

図13 「表現の説明」に対する賛否の比較

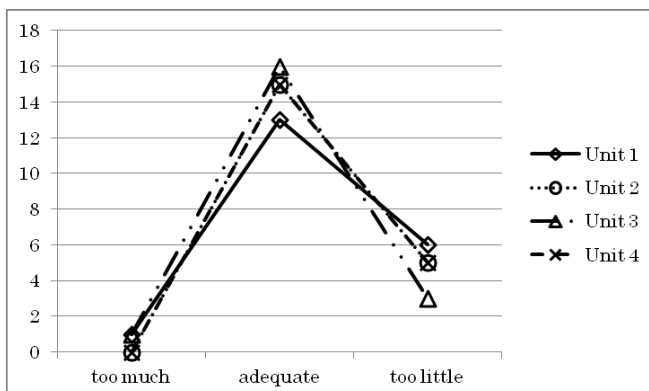


ここでは、非常に高い評価を得ていることが分かる。「説明に満足できるか」という質問に対して、“agree”が4つのどのユニットにおいても70%（20名中14名）を超え、かつ、“disagree”が15%（20名中3名）以下となった。

表現説明の例文の量について

その説明文中の例文の量について聞いたのが次の質問である（質問(2)-10, (3)-10, (4)-10, (5)-10）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 14 である。

図 14 「表現説明の例文の量」に対する評価の比較

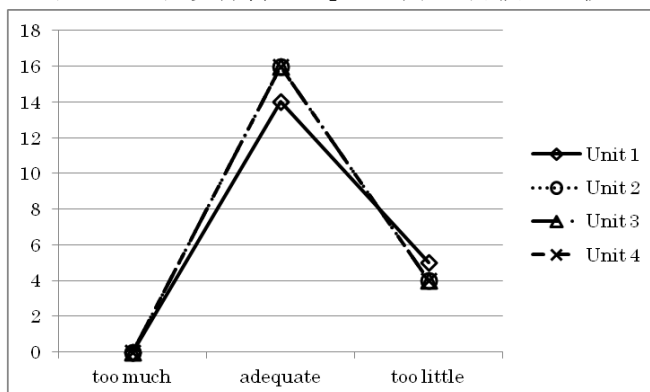


この質問をアンケートに含めたのは、筆者が過去の授業評価の中で表現説明に対して、「もっと例文を示して欲しい」というコメントをもらったためであったが、今回のアンケート調査においてはどのユニットにおいても 60%以上の学生が「例文の量は適切である」と考えていることが分かった。

表現練習の量について

次の質問は授業中最も使用頻度の高い表現練習の量についての質問である（質問(2)-11, (3)-11, (4)-11, (5)-11）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 15 である。

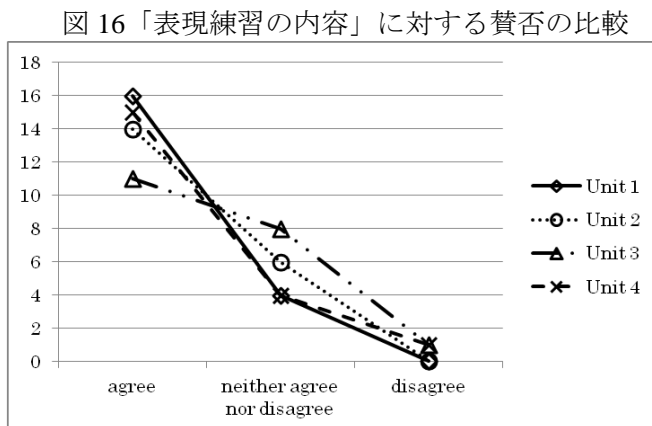
図 15 「表現練習の量」に対する評価の比較



この表現説明の量については、全てのユニットで 70%（20 名中 14 名）以上が“adequate”の回答をしており、先の例文の量を上回る満足度を得ることができた。

表現練習の内容について

その表現練習の内容について聞いたのが次の質問である（質問(2)-12, (3)-12, (4)-12, (5)-12）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 16 である。



「表現練習の内容がいい」に“agree”の数は、unit 3 を除いては 70%以上（20 名中 14 名）以上になった。unit 3 は 55%（20 名中 11 名）であったが、“disagree”を見てみると、全てのユニットで 5%（20 名中 1 名）以下となっており、決して満足度が低いという訳ではなくむしろかなり高いと言えよう。

聞き取り練習の効果について

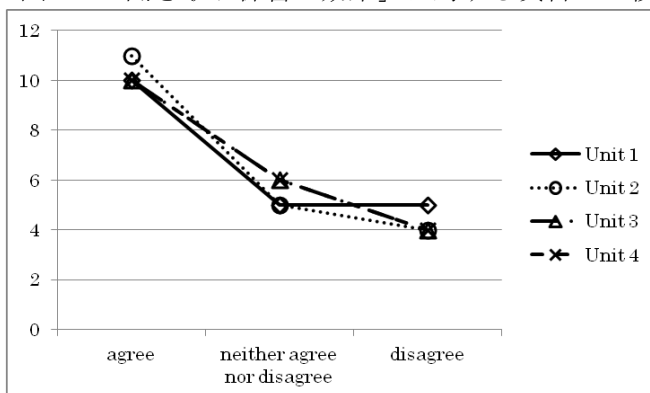
最後は、聞き取り練習に関連した質問である。聞き取り練習は、ダイアログを録音したものを学生に聞かせ、空欄を聞き取って埋めていくというディクテーションの練習をクラスで実施したり、宿題として学生に自宅でやらせたりしている。アンケートでは、「練習の効果」（質問(2)-13, (3)-13, (4)-13, (5)-13）、「録音の音質」（質問(2)-14, (3)-14, (4)-14, (5)-14）、「会話の速さ」（質問(2)-15, (3)-15, (4)-15, (5)-15）の 3 項目について尋ねた。「聞き取り練習の効果」に対する評価のユニット毎の比較を表すグラフが図 17 である。

どのユニットにおいても「聞き取り練習は効果がある」に“agree”の数が“disagree”を上回ってはいるが、「表現説明の満足度」（図 13）に比べるとその差は小さいものと

なっている。

聞き取り練習は、クラスで行う時間がなかなか取れず、学生の自習に任せる場合が多くなっていることも、この結果に影響を与えている可能性がある。

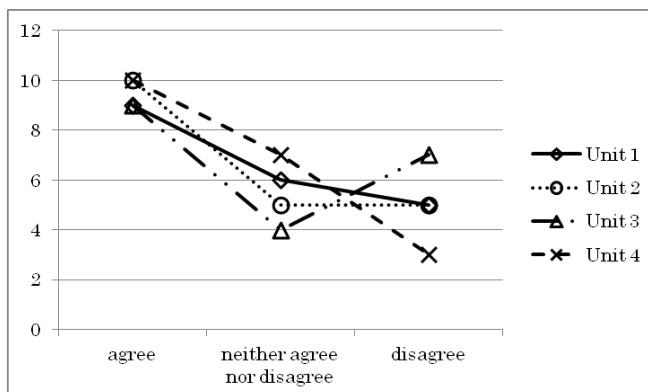
図 17 「聞き取り練習の効果」に対する賛否の比較



聞き取り練習の音質について

図 18 は、「聞き取り練習（ダイアログ）の音質」に関するグラフである。「音質がいいと思う」という質問に対して“agree”か“disagree”かを聞いたが、かろうじて全てのユニットで“agree”が“disagree”を上回った。しかし、“disagree”の数は、“neither agree nor disagree”と拮抗しており、特に、ユニット 3 では、35%（20 名中 7 名）の“disagree”が見られ、“neither agree nor disagree”の 20%を上回った。ダイアログの録音状況は、他の項目に比較して満足度が低いと言えるので、録音のやり直しを検討すべきだと思われる。

図 18 「聞き取り練習の音質」に対する賛否の比較

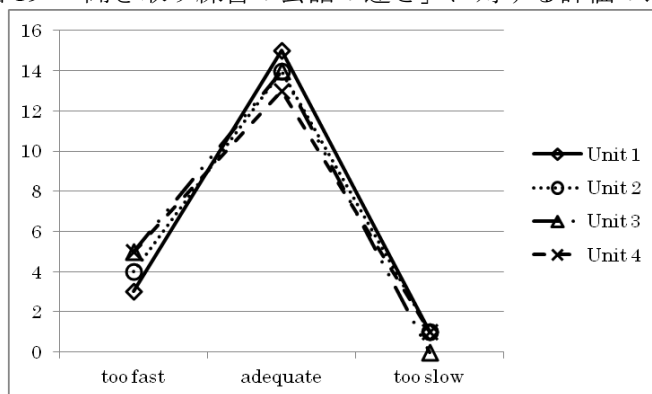


聞き取り練習の会話の速さについて

図 19 は、「ダイアログの会話の速さ」に関するグラフである。「会話の速さが、fast だと思うか、adequate だと思うか、slow だと思うか」を尋ねた結果のユニット毎の比較になっている。

会話スピードは、ほぼ natural speed で録音をされているが、どのユニットでも“adequate”の回答が 60%を超えており、会話の速さについての不満は見られないようである。

図 19 「聞き取り練習の会話の速さ」に対する評価の比較



3.4 結果のまとめ

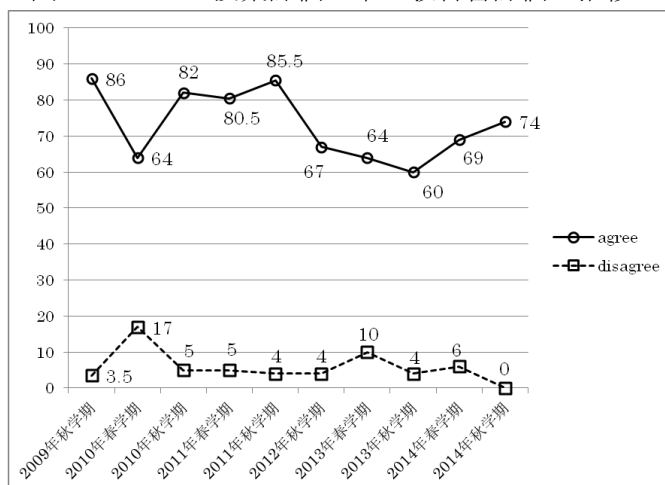
以上のアンケート調査の結果をまとめると今回の改訂対象となったユニット1を含め SPJ5 のモジュール型教材の学生による評価として以下のことが言えそうである。

- (1) トピックとしては、日本のマナーなど文化的側面に興味が強く、ビジネス関係には興味が薄い。ただし、これは学生の質にもよるので引き続きの調査が必要である。
- (2) ダイアログの長さや難しさには問題がないが、単語の数は、1 ユニット当たり 50 前後に絞り込んだ方が良さそうである。覚えるべき単語とそうでないものを分けて提示するなどの方法が考えられる。
- (3) 表現練習に関しては、質、量共に満足度が高いが、単語の練習量はもう少し充実させるのが望ましい。
- (4) 表現の説明については、満足度が非常に高いが、ダイアログの録音音質は、あまり良くないようなので、もう一度録音をし直す必要がある。会話スピードを変える必要はない。

4. 授業評価の中の教科書評価の推移

関西外大の留学生別科では、毎学期学生による授業評価を行っている。その中の一項目として「このクラスで使用された教科書は適切であったか (The textbook/reading materials were adequate)」という設問がある。この項目に関して当初の教科書作成者である高屋敷 (2009 年秋学期～2011 年秋学期) と著者が担当した学期 (2012 年秋学期～2014 年秋学期) の評価を見てみよう (図 20)。評価は、“disagree”から“agree”の 5 段階で評価されている。1 と 2 を“disagree”とし、4 と 5 を “agree”として集計しそのパーセンテージの推移をグラフにしたものが図 17 である。このグラフを見ると、この集計期間において「好意的評価」は常に 60%を上回っており、かつ、「非好意的評価」は常に 20%以下であることが分かる。比較的厳しい評価をする留学生であることを考えれば、この数字はかなり好評価を得ていると結論付けてもよいと思われる。

図 20 SPJ5 の授業評価の中の教科書評価の推移



5. おわりに

今回、SPJ5 の教科書のユニット 1 が改定されたことに合わせて、学生による教科書評価のアンケートを実施し、その結果を報告した。幾つかの改善点も見つかったが、全体的には、学生間の評判は高かった。その理由としては、今回の改定に際しても当てはまることだが、モジュール形式を取っていることで部分的な変更が容易に行えるため、学生のニーズに素早く適応できることにあると思われる。今後共、学生のニーズ調査を継続し、また、社会状況の変化なども考慮しながら、必要な改定を行っていくことが重要である。

また、今回のアンケート調査では、20名の回答を得られたに過ぎないので、同様の調査を継続し、より多くのデータを集積し、教科書の改善に努めていきたい。

参考文献

岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材』 アルク

高屋敷真人（2012）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』22号 pp.119-133.

(smiyauc@kansai.ac.jp)